

き ず な

令和2年7月31日

TEL・FAX 0954-66-3113

発行責任者 江口 常雄

す げん き みどり さと おお くさ の 住 み よ い 元 気 な 緑 の 郷 大 草 野

☆☆☆6つの専門部会 いよいよ 始動！☆☆☆

新型コロナウイルスの感染拡大にともなってこれまで活動が制限されていましたが、感染しない、感染させないに十分注意しながら活動を始めたいと思います。

コミュニティ活動の主軸は、6つの専門部会によるものですから、7月27日(月)から密にならないように2部会ずつ3日間に亘って会議を開きました。そこで決めていただいたのは、部会長と副部会長、それと今年度の事業内容についてです。部会長並びに副部会長は、下表のとおりです、来年の総会までよろしくをお願いします。



部 会 名	部 会 長 名	副 部 会 長 名	
総務・広報部会	村島 秀典 (三坂)	香田 正人 (式浪)	山本 泰正 (角ノ谷)
公民館活動部会	森 一広 (南上)	前田 博敏 (南下)	山口 潔 (万才)
青少年育成部会	小濱 忠義 (式浪)	山口 順司 (三坂)	福田 義紀 (五代)
健康福祉部会	中野 登 (五代)	川原 高文 (五代)	尾崎アキヨ (式浪)
環境整備部会	瀧 昇 (南上)	中野 英則 (五代)	山下 仁美 (南上)
地域づくり部会	中野 哲也 (式浪)	山口 哲郎 (南上)	朝永 真二 (南下)



6部会に共通してお願いしたことは、ウィズコロナという状況の中で、3密にならない事業の計画と実施、今年のかかし祭りは防災広場で開催すること、こどもや高齢者をはじめ地域全体の安全安心や環境の美化などにつながる事業の推進などをお願いしました。

地域をエリアとする活動の第一歩は、地域で出来ることと出来ないことの見極めと取捨選択からではないでしょうか。地域で出来ないことは行政や事業者をお願いすることになるのだと思いますが、一方で、行政ができなくても地域で出来ることもある

かもしれません。そういうものは、ボランティアということだけでなく、相応の費用をいただいて、そこに従事する人や地域全体に還元できればいいことではないでしょうか。

地域コミュニティが、地域イベントを実施するだけの団体からワンランク向上するためには、地域に必要な事業を自らの手で行えるようになる力をつけることだと思います。まずは、そういう気持ちを醸成させることから、皆さんの総意のもとに行えるようにしたいですね。

今後のそれぞれの部会の事業実施については、この便りでしっかりお知らせしたいと思います。

《《早々と、イノシシ襲来!!!》》

7月2日午前、事務所へ田中副会長が「防災広場を猪が荒らしている」という情報を持って来られたので、すぐに見に行きました。数か所掘り返されたところがありましたが左の写真が最も大きな箇所（延長5m、深さ60cm程度、左写真は埋め戻しています。）でした。すぐに市役所の担当職員に来てもらい、「作業はコミュニティで行うので材料の支給をお願いしたい!」と依頼し、4日土曜日の午後から、役員でグラウンドの水溜り所への土入れと、その箇所への芝張り、延長40数メートルのイノシ



シ防除フェンスの設置を行いました。

コロナ禍の自粛や農繁期に続く長梅雨で、人間が使わないうちから、イノシシの方が先に広場を利用していただけです。ちゃんと、利用簿に記帳して貰いたいものです。

梅雨が明けたら、イノシシに負けないように広場の活用をお願いします!!



◇◇ 悲運な亀が・・・◇◇

梅雨の中休み、夕方、日課のウォーキングをしていると、南上から式南橋に向かう路上に黒い石のようなものがあり、「こんなところに置いて危ないな」と思いつつ近づいてみると、亀でした。

甲羅が真つ二つに割れて、内臓も飛び出しています。おそらく、車に轢かれたのでしょう。しかし、この亀の大きさであれば車体だって大きく揺れたはずなのに、そのまま走り去ったのでしょうか？ 大人のはずなのに、草叢や川に返し、葬つてあげようという気持ちの余裕は無かったのだろうか？ 何故、放置して立ち去るのだろうか？ と、そんなことを思い始めたら、なんだか少し寂しい気持ちになりました。たとえ小さな命であっても、少しは思いを寄せて欲しかったと思いました。今のような状況の中だからこそ、他者への思いやり優しさを大切にしたい、そう思います。

真二つに 甲羅を割られ 捨て置かれ
問うているのか 人の情けを

という、印象でしょうか？

いよいよコミュニティの活動が始まります。私も以前は、地域活動は誰かできる人がやってくれるだろうという気持ちの方が大きかったです。最近では、例え会に入らなくても、家を一步出て、道路のゴミを拾うだけでも地域のためになるのだと思うようになりました。自分自身が、勇気を出して動くことが大切だと感じています。